

画家が愛した風景

みなみ くん そう 南薫造と旅する 瀬戸内の美

THE LANDSCAPE THAT THE PAINTER LOVED
"BEAUTY OF SETOUCHI,
TRAVELLING WITH MINAMI KUNZOU" MAP

南薫造と旅する瀬戸内の美マップについて

瀬戸内の風光を簡単な言葉で言い表わすと『甘美』の一言につきる。その形と色彩も甘美である。

生まれ育った瀬戸内の光あふれる風景を愛し、それを豊かな創造の源とした洋画家・南薫造。明治末期から日本の洋面畫を代表する画家であった南は、明るく溫和な色彩表現により、「日本の印象派」とも呼ばれています。「南薫造と旅する瀬戸内の美」マップは、瀬戸内を題材とした南の作品と現在の風景を対比し、それぞれの場所について紹介しています。このマップを片手に、画家が瑞々しい感性で見つけた景色を辿ってください。きっと新たな喜びがあることでしょう。



このマップでは、南が描いたスポットまで、観光地ではない住宅地を多くと設定されたものもあります。無断で私用地に入らない・不用意にカメラを向けない・路上駐車をしないなど、マナーを守ってお楽しみください。

お 願 い

南薫造が描いた場所へのアクセス



このマップで取り上げた美術館

広島県立美術館
〒730-0014 広島県広島市中区上横町2-22
TEL: 083-221-6246
URL: www.bpm.jp/

呉市立美術館
〒737-0028 広島県呉市中町 入船山公園内
TEL: 0823-25-2007
URL: www.kure-h.jp/

南薫造記念館
〒737-2519 広島県呉市安浦町内海津2丁目13-10
TEL: 0823-84-6421
URL: www.dig.kure.ky/sosaku/106/yasunarekikanonaka.html

瀬島閣美術館
〒737-0301 広島県呉市下瀬町三之瀬200-1
TEL: 0823-65-3066
URL: www.shimokanagari.jp/

南薫造の展示作品は入れ替わります。南薫造作品が展示中かどうかは、各美術館まで直接お尋ねください。

監修 | 広島県立美術館 南薫造記念館 瀬島閣美術館
協力 | 呉市立美術館 南薫造記念館 瀬島閣美術館
協賛 | 安浦町まちづくり協議会 橋本工業株式会社 武田製鋼株式会社
公益財団法人呉市文化振興財団 シーサイド桂ヶ浜荘 有限会社竹本住宅設備
発行元 | 一般社団法人呉観光協会 安浦町観光協会 安芸津町観光協会
発行 | 2021年3月31日

マップに調べるお問合せ
一般社団法人 呉観光協会 (TEL: 0823-21-8366 / URL: www.kure-kankou.jp/)



南薫造の生涯

(1883年-1950年 / 明治16年-昭和25年)

私は此の瀬戸内の沿海一帯の地を極愛して居ます、
これは自分の趣味の上から来た事は勿論ですが
又た之れが自分の生まれた故郷であると云う事が
余程手広ふても居るのでせう。

南薫造は、広島県賀茂郡内海村(現在の呉市安浦町)に医師の家の長男として生まれました。中学時代に当時まだ珍しかった油彩画を見たことがきっかけで、洋画家を志しました。東京美術学校(現在の東京藝術大学)西洋画科で学んだ後、水彩画への関心から、当時多くの画家たちが向かったフランスへ留学。帰国後は官展での評価を重ねることも、母校の教授として後進の育成にも力を注ぎました。また、帝室技芸員に任命されるなど、押しも押されぬ画壇の大家として活躍しました。

しかし、戦禍を避けるため、1944(昭和19)年に郷里に疎開。終戦後も安浦にとどまり、地方文化の再建をめざし、戦争によって大きな犠牲を負った広島美術界の復興に尽力しました。

南薫造の画風と作品

南薫造作品の特徴は、穏やかな温かみと、その名前が示すように「新緑の間を吹き抜ける薫風」のような清透感にあります。イギリス留学で磨きかけた高い技術と色彩への繊細な感覚により、日本の風土がもつ雰囲気や自然を描き出した点が評価されています。



《坐せる女》1908年、広島県立美術館蔵



《石磨り》1912年、広島県立美術館蔵

《坐せる女》は、刺繍の手を止め、頬杖をつく若い女性を描いた初期の代表作です。落ち着いた色調の中に、髪の手つき、花瓶の硬さ、肌の柔らかさといった質感が丁寧に描き分けられており、技藝力の高さがわかります。

《石磨り》は、瀬戸内の風景を点描による明るい彩色で描いた作品です。留学から戻った後は、本作のような印象派風の作品が画壇の話題となりました。



《テーマス夜景》1909年、広島県立美術館蔵



《魚見》1911年、個人蔵

《テーマス夜景》は、街の灯が川面に映る夜の情景を描いた水彩画で、豊かな詩情が表現されています。本作のような、透明感を生かした水彩画の愛品を南は数多く残しています。

《魚見》は、ボラなどの魚群を探る魚見船を描いた木版画です。従来の分業ではなく、下絵を描き、版木を彫り、紙に摺る(自画自刻自摺)という工程すべてを一人で行っていきます。手作りの温かみを生かした南の愛らしい版画は、大正時代に活版になった創作版画運動の先駆けと言われています。

南薫造、瀬戸内海を思う

晴れた日の海は実に青い、
其れが海岸に近いところで急に緑色になって居る。
海に沈んだ山は秀げた松山が多い。
其の土は輝く白色か燦瓦石よりも、紅色をして居るので、
樹木の緑色と対してキラキラしている。
之がまた日の暮れる前には異なった顔に穏やかな観を呈する。
之等の景色は何時足ても決して飽いた事はありません。

南薫造の眼差しは、刻一刻と変化する瀬戸内の海、島々の緑、地面の色、陽が昇る解放感、それらが織りなす情景を捉え、生涯にわたってその美を描き続けました。

しかし、戦時中は国防上の理由により、呉周辺の海域を描くことができませんでした。それだけに、戦後後に平穏を取り戻した瀬戸内海を見た喜びは格別で、「ちょうど花がバツと開いた様な感じがした」と語っています。愛する風景を描くという当たり前にも思えることが、平和な時代の営みを象徴していたのです。

画家が愛した風景

みなみ くん ぞう
南薫造と旅する
瀬戸内の美

THE LANDSCAPE
THAT THE PAINTER LOVED
"BEAUTY OF SETOUCHI TRAVELING
WITH MINAMI KUNZO" MAP

📍 は南作品と似た景色が見えるスポットを指し、
➡ は見える方向を示す。



やすら
安浦

南薫造の郷里である安浦の地名は、「浦安かれ」に由来する。
《曝書》は南の自宅で書物の虫干しをする光景、《庭》は自宅の庭を描いたもの。
この自宅や庭は現在、南薫造記念館として公開されており、南の作品のほか、アトリエや画材、愛用の品々も見学できる。
また、同館の裏手からは、《農村風景Ⅱ》と同じ山並みが遠望できる。



《曝書》1916年、広島県立美術館蔵



《農村風景Ⅱ》1947年頃、南薫造記念館蔵



《庭》制作年不詳、広島県立美術館蔵



広島県立美術館

広島市

くれ
呉

九つの峰に囲まれた九嶺が呉の地名の由来といわれる。軍港として理想的な土地だったため、戦前は海軍の町として発展したが、1945(昭和20)年の空襲により焼け野原となる。
それから4年後に描かれた《江湾》は、多くの船舶が往来する様を明るく穏やかな色彩で描き、戦後の新たな時代の雰囲気表現している。



《江湾》1949年、広島県立美術館蔵



南薫造記念館

呉市立美術館

瀬戸内美術館

下蒲刈

蒲刈

かざはや
風早

地名は「豪族 風早氏」の名前が由来。古くから瀬戸内海航路における船舶地として万葉集にも詠まれている。
弟子によると南は風早の日の出を描くために、何日も始発の汽車で通ったという。また、同地には版画家・永瀬義郎(1891-1978)のアトリエがあり、南は永瀬が会長を務めた芸南文化同人会に参加し、地方における文化復興にも携わった。



《風早の日の出》制作年不詳、広島県蔵



《風早の日の出》1949年頃、南薫造記念館蔵



くらはし かろうと
倉橋・鹿老渡

地名は、朝鮮通信使がよく停泊したことから韓泊(からとまり)の転化と言われる。江戸時代には風待ち・潮待ちの港として栄え、現在も江戸時代中期に大名の本陣として建てられた家が残る。
南は、戦後に広島鉄道局主催の観光事業のため立ち寄った鹿老渡の風景を「絵として申し分ない」と称賛した。



《倉橋》(スケッチブックより) 1946年、個人蔵



倉橋・鹿老渡

しもかまがり
下蒲刈

風待ち・潮待ちの港として、江戸時代には立ち寄った朝鮮通信使がその歓待ぶりを称えた。三ノ瀬地区には当時の面影が残る。
南は、みかんが豊かに実る景色を「営々たる温かい太陽の光を浴びて穏やかな自然と勤勉な人生を感じる」と語り、みかんが象徴する瀬戸内の生活、その風景を愛した。



《下蒲刈の風景》1949年、広島県立美術館蔵



かまがり
蒲刈

地名は神功皇后が立ち寄った時、失くした櫛を探すために生い茂る蒲を刈ったことから名付けられた。
《半山のみかん畑》は、みかんの鮮やかな色彩と、海の青色とのコントラストにより瀬戸内の特徴的な風景を見事に捉える。



《半山のみかん畑》1949年、瀬戸内美術館蔵

